

生誕 100年 今井正の仕事 出品目録

休館日 毎週月曜・月末館内整理日
(詳細は当館HP等でご確認下さい)

※前期/後期で全展示品の展示替えを行いません。両期とも出品するものについては頁替えがあります。
※書簡等の直筆資料については、資料保護のため、適宜複製との入れ替えを行います。
※諸般の都合により、予告なく展示品や展示期間を変更する場合があります。
※本展示のキャプション及び出品目録編集は新井千恵が担当しました。

No. 作品名	年代・発行元	所蔵	展示期間	
			前期	後期
今井正◆水木洋子と出会う				
今井正と水木洋子は、水木の映画デビュー作であった「女の一生」をきっかけに出会います。1947年末から翌48年頃、水木が映画の打ち合わせのため東宝に出向き、今井は「女の一生」の監督・亀井文夫から水木を紹介されました。このあと、今井は水木とのコンビで、全11作品の映画を創出していきます。				
1 「女の一生」プログラム	1949年(昭和24)1月25日封切	東宝 市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○	
2 「女の一生」ポスター	1949年(昭和24)1月25日封切	東宝 市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○	
3 「特報『女の一生』亀井組スケジュール表」	1948年(昭和23)3月7日発行	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○	
4 「東宝映画 女の一生」リーフレット	1948年(昭和23)4月24日 全日本印刷出版労働組合文化部	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○	
5 『新女性』より 水木洋子、今井正対談「映画をめぐって 今日から明日へ」	1950年(昭和25)12月号	新女性社 市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○	
6 『新映画』より 『女の一生』の一日の撮影を解剖する」	1949年(昭和24)3月号 日本映画出版	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○	
7 ラジオドラマ「カルメン」台本	1947年(昭和22)12月27日放送	NHK 市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○	
8 「女の一生」台本	1948年(昭和23)3月以前成立、翌年1月25日封切	東宝 市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○	

第1作◆また逢う日まで

「また逢う日まで」は、今井正が水木と組んだ最初の作品です。当初今井は水木の脚本に納得せず、水木は撮影期間中に旅館に缶詰になり、ぎりぎりまで脚本を書き改めました。

9 水木洋子「また逢う日まで 第一稿」原稿	1950年(昭和25)1月上旬	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○	
10 「また逢う日まで」台本	1950年(昭和25)1月上旬	東宝 市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○	
11 「くちづけ」台本	1950年(昭和25)1月中	東宝 市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○	
12 「また逢う日まで」台本	1950年(昭和25)2月頃成立、3月21日封切	東宝 市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○	
13 『日本評論』より 今井正「ささやかな捨石『また逢う日まで』」	1951年(昭和26)4月号 日本評論新社	市川市文学プラザ蔵	○	
14 水木洋子宛今井正書簡	1950年(昭和25)1月中	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○	
15 「今井組『くちづけ』スケジュール表」	1950年(昭和25)1月30日発行	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○	
16 水木洋子「また逢う日まで」改訂稿	1950年(昭和25)2月頃	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○	
17 「また逢う日まで」改訂台本	1950年(昭和25)2月頃	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○	
18 「また逢う日まで 完成特別大試写会」プログラム	1950年(昭和25)3月20日	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○	

第2作◆ひめゆりの塔

戦時下の沖縄の悲劇を描く「ひめゆりの塔」は、当初大映での企画があったものの、朝鮮戦争の影響で中止となります。その2年後、東映で映画化が実現されました。レッドバージに巻き込まれ、各映画会社から敬遠されていた今井が、映画製作の第一線に復帰するきっかけとなった作です。

19 「ひめゆりの塔」台本	1950年(昭和25) 大映	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○	○
20 「ひめゆりの塔」企画書	1950年(昭和25) 大映	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○	
21 水木洋子宛今井正書簡	1951年(昭和26)8月12日	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○	
22 水木洋子「ひめゆりの塔」取材メモ		市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○	
23 「ひめゆりの塔」台本	1952年(昭和27)成立	東映 市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○	○
24 『映画の友』より 清水晶「『ひめゆりの塔』(今井正)セット訪問」	1952年(昭和27)12月号	映画世界社 市川市文学プラザ蔵	○	
25 『婦人公論』より 今井正、津島恵子、香川京子、水木洋子対談「ひめゆりの塔の下 はく息は白く」	1953年(昭和28)2月号	中央公論社 市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○	
26 「ひめゆりの塔」プレスシート	1953年(昭和28)1月9日封切	東映 市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○	

27	水木洋子「ひめゆりの塔」構想メモ		市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
28	久保一雄・水木洋子「ひめゆりの塔」地図		市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
29	「ひめゆりの塔」プログラム	1953年(昭和28)1月9日封切 京橋出版社	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○

第3作◆にぎりえ

「にぎりえ」は、樋口一葉の短編小説「十三夜」「大つごもり」「にぎりえ」の三作品で構成したオムニバス映画です。今井と水木が、ともに原作重視の姿勢で取り組みました。

30	「にぎりえ」プログラム	1953年(昭和28)11月23日封切 文学座・新世紀映画/東宝配給	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
31	『婦人公論』より 今井正、岸田国土、津村秀夫、水木洋子座談会「文芸映画をめぐる」	1954年(昭和29)4月号 中央公論社	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
32	樋口一葉『改造文庫 樋口一葉選集』	1929年(昭和4) 改造社	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
33	「にぎりえ No.1」プレスシート	1953年(昭和28)8月28日以前 映画「にぎりえ」製作本部	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
34	樋口一葉『一葉全集』前編・後編	1912年(明治45) 博文館	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
35	『キネマ旬報』より 杉村春子、長岡輝子、丹阿弥谷津子、北城真紀子、淡島千景座談会「『にぎりえ』に出演して」	1954年(昭和29)2月1日号 キネマ旬報社	市川市文学プラザ蔵	○
36	「にぎりえ」台本	1953年(昭和28)11月23日封切 文学座・新世紀映画/東宝配給	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	6.2-7.16
37	「十三夜」改訂台本	1953年(昭和28)11月23日封切 文学座・新世紀映画/東宝配給	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	7.18-9.2
38	水木洋子「にぎりえ」構想メモ		市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○

第4作◆ここに泉あり

「ここに泉あり」は、国内外の名曲を散りばめた、本邦初の本格的音楽映画です。製作中に今井は、資金調達やロケ地探しの苦勞、脚本に対する音楽家の意見などを、水木に書簡で伝えています。

39	「ここに泉あり」準備台本	1955年(昭和30)2月12日封切 中央映画	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○ ○
40	「ここに泉あり」台本	1955年(昭和30)2月12日封切 中央映画	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
41	「ここに泉あり」プログラム	1955年(昭和30)2月12日封切 中央映画/独立映画配給	市川市文学プラザ蔵	○
42	「ここに泉あり」特別試写会プログラム		市川市文学プラザ蔵	○
43	水木洋子宛今井正書簡	1954年(昭和29)8月9日	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
44	『キネマ旬報』より 「ここに泉あり 今井正監督の音楽映画」	1954年(昭和29)11月1日号 キネマ旬報社	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○

第5作◆純愛物語

「純愛物語」は、不良仲間の男女が更正し結ばれようとする時、少女に原爆の後遺症があらわれ、2人が引き裂かれる物語です。徹底的な調査を踏まえ、脚本執筆にじっくり時間をかける水木に、今井は再三にわたる催促をしています。

45	水木洋子「純愛物語」取材手帳		市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
46	水木洋子宛今井正書簡	1956年(昭和31)5月30日	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
47	水木洋子宛今井正書簡	1957年(昭和32)2月4日	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
48	水木洋子宛今井正書簡	1957年(昭和32)8月6日	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
49	「純愛物語」スチール写真	1957年(昭和32)10月15日封切 東映	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
50	「純愛物語」プログラム	1957年(昭和32)10月15日封切 東映	市川市文学プラザ蔵	○

第6作◆キクとイサム

「キクとイサム」は、アメリカ人の父・日本人の母の間に生まれ、東北の農村で祖母に育てられた姉弟が、成長につれて自身の生まれつきや周囲の感情に気づき、自身の生きる道を模索する物語です。難しいテーマを思い切って明るく描いた本作は、各賞を総なめにするヒット作となりました。今井・水木コンビの頂点を示す作品です。

51	『映画芸術』より 「『キクとイサム』を中心に 今井正監督との一問一答」	1959年(昭和34)6月号 共立通信社	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
52	『今井正「全仕事」スクリーンのある人生』より 今井正、水木洋子対談「『キクとイサム』のこと」	1990年(平成2) 映画の木工房ありす	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
53	「キクとイサム」プログラム	1959年(昭和34)3月29日封切 大東映画/松竹配給	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
54	「キクとイサム」プログラム	1959年(昭和34)3月29日封切 大東映画/松竹配給	市川市文学プラザ蔵	○

55 「デイリー・スポーツ」より「今井監督『キクとイサム』のリハーサル・テスト」	1958年(昭和33)10月10日 デイリー・スポーツ社	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
56 『日本』より「キクとイサムと今井正」	1959年(昭和34)2月号 講談社	市川市文学プラザ蔵	○

第7作◆あれが港の灯だ

「あれが港の灯だ」は、李ライン周辺で操業する漁船が韓国船によって拿捕される事件が相次ぐなか、長崎の漁船員として働く在日韓国人青年の悲劇を描いた作品です。水木の徹底した現地調査や今井の妥協を許さない演出姿勢が、作品に輝きを与えています。

57 「読売新聞」切抜 『キクとイサム』のトリオ再現 市川企画・水木脚本・今井監督 長崎の漁民の不安を描く」	1960年(昭和35)3月30日夕刊 読売新聞社	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
58 「東京新聞」切抜 「李ラインの日本漁船を映画に 今井正監督が水木洋子脚本で」	1959年(昭和34)7月22日夕刊 東京新聞社	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
59 「海上保安庁のしおり」	1958年(昭和33)4月 海上保安庁	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
60 『李ライン問題と日本の立場』	1953年(昭和28)10月 日韓漁業対策本部	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
61 「ぼってん言葉」絵はがき		市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
62 『長崎唄の本』	富貴楼	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
63 水木洋子「あれが港の灯だ」取材手帳		市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
64 水木洋子「あれが港の灯だ」取材手帳		市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
65 「あれが港の灯だ」準備台本	1959年(昭和34)7月-翌年3月頃成立 東映	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○ ○
66 「あれが港の灯だ」台本	1959年(昭和34)7月-翌年3月頃成立 東映	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
67 「あれが港の灯だ」改訂台本	1960年(昭和35)4月以降成立、翌年2月26日封切 東映	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○ ○
68 「あれが港の灯だ」シナリオ説本	東映	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
69 「読売新聞」より「今井正監督の『あれが港の灯だ』丸二ヶ月、苦心のロケ スタッフも真っ黒にやける」(複製)	1960年(昭和35)11月18日夕刊 読売新聞社	市川市文学プラザ蔵	○
70 「あれが港の灯だ」劇場用プレスシート	東映本社宣伝部	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
71 「あれが港の灯だ」アンケート・第一報	東映	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
72 「あれが港の灯だ」ポスター	1961年(昭和36)2月26日封切 東映	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
73 「あれが港の灯だ」ポスター	1961年(昭和36)2月26日封切 東映	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○

第8作◆につぼんのお婆あちゃん

水木洋子・市川喜一・今井正の3人は「につぼんのお婆あちゃん」製作時にM・I・Iプロダクションを結成し、赤字覚悟の共同出資で臨みました。高齢者問題は当たらないという予想は当たり、後に今井は、こうした問題を取上げるには時期が早すぎた、と述べています。

74 「読売新聞」切抜「MIIプロ第一作 老人問題に取り組む」	1961年(昭和36)8月1日夕刊 読売新聞社	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
75 「産経新聞」切抜「顔そろえたオールド・スター 今井監督の“喜劇”『につぼんのお婆あちゃん』」	1961年(昭和36)9月30日夕刊 産経新聞社	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
76 「東京新聞」切抜「ただ今撮影中 老スター？が総出演 MIIプロ第一作『喜劇・につぼんのお婆あちゃん』」	1961年(昭和36)9月30日夕刊 東京新聞社	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
77 「読売新聞」切抜「今井監督、ロケを敢行 人だかりものともせず 『日本のお婆あちゃん』浅草へ」	1961年(昭和36)10月30日夕刊 読売新聞社	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
78 『東京都養老院在院者文芸作品集』	1953年(昭和28) 東京都養老院	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
79 取材ノート「養老院資料」		市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
80 水木洋子「につぼんのお婆あちゃん」登場人物メモ		市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
81 水木洋子「につぼんのお婆あちゃん」作品名検討メモ		市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
82 「女のしあわせ」台本	1961年(昭和36)夏頃 M・I・Iプロ	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
83 「喜劇 につぼんのお婆あちゃん」台本	1961年(昭和36)9月以前 M・I・Iプロ	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
84 「につぼんのお婆あちゃん」プレスシート	1962年(昭和37)1月3日封切 松竹株式会社関西支社宣伝課	市川市文学プラザ蔵	○

第9作◆妖婆

「妖婆」は、大映の永田雅一プロデューサーが、かつて自身が受賞したヴェネツィア映画祭グランプリをもう一度と夢見、「羅生門」と同じ原作者・主演・撮影スタッフを揃えて意欲的に臨んだ作品。今井は脚本を読んで自分向きの素材でないと判断、監督を辞退するも断りきれなかったといいます。撮影担当の宮川一夫との息も合わず、今井が自身の三大失敗作の一つに数える作になってしまいます。

85 「毎日新聞」切抜 「永田雅一氏の“再起”第二作 京マチ子主演で『妖婆』 “グランプリ・トリオ”で『夢よもう一度……』と永田氏」	1976年(昭和51)8月9日夕刊 毎日新聞社	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
86 「妖婆」プログラム	1976年(昭和51)10月16日封切 永田プロ・大映/松竹配給	市川市文学プラザ蔵	○
87 「妖婆」ポスター	1976年(昭和51)10月16日封切 永田プロ・大映/松竹配給	市川市文学プラザ蔵	○
88 「妖婆」ポスター	1976年(昭和51)10月16日封切 永田プロ・大映/松竹配給	市川市文学プラザ蔵	○

第10作◆あにいうと

1953年に成瀬巳喜男監督・水木洋子脚本で製作された映画のリメイク。今井のリメイク版は、舞台を70年代に置き換え、登場人物を当世風にして成功しました。

89 「あにいうと」台本	1976年(昭和51)5月17日発行 東宝	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
90 「あにいうと」台本	1976年(昭和51)6月12日発行、10月23日封切 東宝	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
91 水木洋子「あにいうと」原稿		市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
92 「あにいうと」プログラムより 瓜生忠夫「今井監督 人と作品―巨匠今井の本領を回復―」	1976年(昭和51)10月23日封切 東宝株式会社事業部	市川市文学プラザ蔵	○

第11作◆ひめゆりの塔

1953年に今井・水木のコンビで製作された映画のリメイク版。今井は当初、自身の旧作の焼き直しに乗り気ではありませんでした。前作で叶えられなかった沖縄ロケが出来ると聞いて前向きになります。この時、水木も沖縄訪問を実現します。

93 「ひめゆりの塔」シナリオハンティング予定表	1981年(昭和56)6月29日以前成立	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
94 「エアリアマップ分県地図47 沖縄県」	1981年(昭和56)2月 昭文社	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
95 「ひめゆりの塔」プログラム	1982年(昭和57)6月12日封切 芸苑社/東宝配給	市川市文学プラザ蔵	○
96 「ひめゆりの塔 VOL2」プレスシート	1982年(昭和57)1月以降 東宝株式会社宣伝部	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
97 「ひめゆりの塔 VOL3」プレスシート	1982年(昭和57)1月以降 東宝株式会社宣伝部	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○

今井正と水木洋子◆晩年までの交流

今井と水木は、映画製作時にコンビを組むほか、近況を伝えあい、互いの仕事に対する感想を述べあう等、さまざまな形で生涯にわたり親交を続けました。今井は市川市八幡にある水木邸にも訪れ水木の母あいの手料理も味わっています。ここでは、晩年まで「いい戦友」であり続けた今井と水木の交流の一端を紹介します。

98 水木洋子宛今井正葉書	1955年(昭和30)6月2日	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
99 『婦人倶楽部』より 水木洋子「あなたと共に」	1954年(昭和29)8月号 大日本雄弁会講談社	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
100 『婦人公論』より 今井正「時のひと話題の人診断 水木洋子」	1955年(昭和30)4月号 中央公論社	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
101 水木洋子宛今井正書簡	1957年(昭和32)12月24日	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
102 水木洋子宛今井正葉書	1978年(昭和53)5月27日	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
103 テレビドラマ「青いくちづけ」台本	1978年(昭和53)1月4日-4月7日放送 毎日放送	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
104 『今井正「全仕事」 スクリーンのある人生』	1990年(平成2)10月 映画の本工房ありす	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
105 水木洋子「今井さんとの仕事」草稿	1989年(平成元)6月以前成立	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
106 「今井正ノ世界」チラシ	1990年(平成2)10月27日-11月2日 日本映画学校、日本大学芸術学部 映画学科	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
107 水木洋子宛今井正賀状	1978年(昭和53)1月	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
108 水木洋子宛今井正賀状	1987年(昭和62)1月	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
109 水木洋子宛今井正賀状	1988年(昭和63)1月	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○
110 水木洋子宛今井正賀状	1991年(平成3)1月	市川市文学プラザ水木洋子コレクション蔵	○



市川市文学プラザ

〒272-0015 千葉県市川市鬼高1-1-4 市川市生涯学習センター3F

TEL047-320-3354 FAX047-320-3352

<http://www.citv.ichikawa.lg.jp/bunpla/>